

たかけい学報

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

The Bulletin of Takasaki City University of Economics



たかけい学報

創刊50周年

100号記念

GAKUHOU HISTORY

1969→1993

『たかけい学報』は、創刊50周年、第100号を迎えることができました。1969年(昭和44年)に『高崎経済大学学報』として創刊され、これまでの長きに渡り、本学の卒業生、保護者、教職員、地域の皆様、そして在校生など多くの方々にご支援いただきました。厚く御礼申し上げます。今号では、本学の教育研究、部活・サークル活動、三扇祭をはじめとする大学行事等の変遷を見つめてきた『学報』50年の歴史をふり返ります。 広報室長(地域政策学部教授)櫻井 常欠



1号 [1969年(昭和44年2月12日)] B4縦型両面1枚
●広報委員会が設置され「学報1号」が発行
●ウェスト・テキサスA&M大学(アメリカ)との姉妹大学関係の締結
●就職中間報告(内定者約85%、大企業が5割以上、産業別では「卸売・小売業」が最も多く、次いで「製造業」 「金融・保険・不動産業」の順。平均初任給30,576円)

1973年
●同窓会主催の卒業パーティーが中央公民館で開催
300余名の出席者

1971年
●後援会費による海外研修の開始
●応援団が県知事より表彰(社会奉仕活動の部)

1970年
●事務棟完成
●図書館南側増築完成

1969年
●広報委員会が設置され「学報1号」が発行

1964年
●経済学部経営学科 設置

1961年
●現キャンパスに移転

1957年
●高崎市立高崎経済大学 開学
(経済学部経済学科)

1971年
●マクドナルドの日本1号店が東京・銀座に開店
●日清食品から世界初のカップ麺
「カップヌードル」発売

1970年
●日本万国博覧会(大阪万博)が開催



13号 [1972年(昭和47年5月20日)]
B5横型両面2枚4ページ

●本号より趣向が変わる。
(冒頭に座談会を盛り込み、
ページ数も増えた)
●座談会
(テーマ:大学の語学教育は
これでいいのかや
教官の研究動向が掲載)



21号 [1976年(昭和51年7月1日)]

1978年
●第1回共通一次テスト 本学でも実施
附属産業研究所主催
第1回「市民公開シンポジウム」開催

1976年
●創立20周年記念事業
附属産業研究所主催
「市民公開講座」の実施

1975年
●東館(現5号館)の完成(1階は800名収容の大講義室、
会議室1、演習室5、2階は50名収容の会議室1、
演習室7)

1978年
●日中平和友好条約調印

1977年
●巨人の王貞治が対ヤクルト戦で
ホームラン世界新記録の756号を達成

1975年
●第1回高崎ふるさと祭り開催

1974年
●大規模店小売店舗法施行

1973年
●第1次オイルショック

1972年
●札幌オリンピック開催
●沖縄返還

1980年
●総合体育館落成
●高崎経済大学学報 → たかけい学報
タイトル変更

1982年
●創立25周年記念式典開催

1984年
●大学主催の第1回公開講座実施(全6回)

1985年
●南館(現3号館)完工

1986年
●附属図書館県民公開始める
●図書館の貸し出しは公立大学初
●研究棟が完成

1987年
●創立30周年記念式典開催
●開学30周年記念 彫刻「独歩」設置
●TIES(高崎経済大学国際交流協会)発足

1989年
●後援会直営コーヒーハウス営業開始

1991年
●新附属図書館完成
●テネシー大学マーティン校(アメリカ)と
交流協定締結

1992年
●ダブリン・シティ大学(アイルランド)と
交流協定締結
●新校舎南2号館(現2号館)落成

1993年
●欧州連合(EU)が発足

1990年
●10月3日 東西ドイツが統一(ドイツ再統一)

1989年
●昭和天皇が病気のため崩御
翌8日、元号が昭和(1926年-1989年)から平成へ改元
●12月29日 日経平均株価が史上最高値38,915円を記録
●消費税導入3%

1987年
●国鉄が分割・民営化
●JRグループが発足

1986年
●男女雇用機会均等法施行

1985年
●電電公社民営化、NTTが発足

1984年
●日経平均株価が終値ではじめて1万円を突破

1983年
●東京ディズニーランド開園

1982年
●500円硬貨発行

1981年

1979年
●東京サミット開催
●第2次オイルショック

たかけい学報

特集 創立二十五周年を記念する

二十五周年を記念して
中野 剛 著
高経大二十五周年を振り返りて
佐藤 浩 著

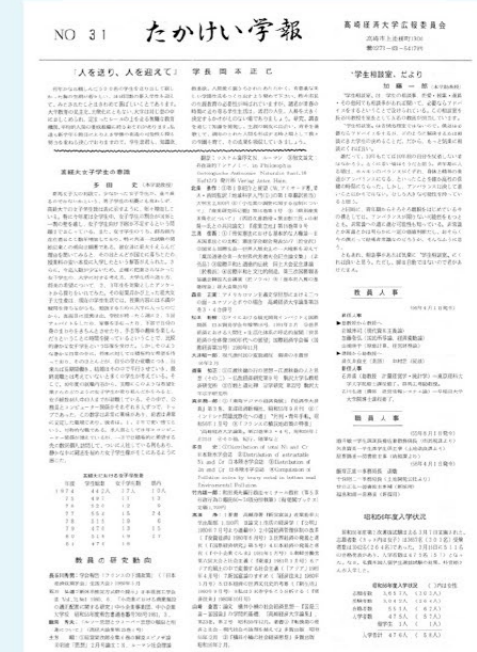
33号 [1981年(昭和57年7月30日)] B5縦型両面5枚10ページ
●創立25周年記念号
(現状を記録するため、学会活動とクラブ活動について取り上げている)
●記念号発行を契機に学報のスタイルを変更



29号 [1979年(昭和54年6月20日)]
B5横型両面2枚4ページ
●第7回都留文科大学定期対抗戦開催周知
●第20回三扇祭(6/22~25、テーマ「シンプルへの
追求」サブテーマ「もっとしなやかに」市内パレード、
映画会「天国と地獄(黒澤明)」「青葉繁れる(岡本喜八)」など)
●学生部長より「悪徳商法に関する注意」
(なずみ講、マルチ商法という悪徳商法が横行して
いるため、注意喚起)



35号 [1983年(昭和59年7月1日)]



31号 [不明] B4縦型両面1枚2ページ
●「高崎経済大学学報」→「たかけい学報」タイトル変更
※号数が重複している、発行年月日の記載はないが内容から昭和56年度に発行された模様
●入学者476名(うち女子58名・留学生1名)
●高経大女子学生の意識(年々増加している女子学生について、これ
まで人数が少なかったため、把握できていなかった女子学生の大学に
対する考え方、大学生活の送り方、将来の希望について、アンケートを
実施。その分析結果。)



42号 [1990年(平成2年1月8日)]



48号 [1993年(平成5年1月)]

社会情勢



50号 [1994年(平成6年3月1日)] A5縦型両面表紙・裏表紙のみカラー刷り40ページ
●新装記念号(本号からスタイル、デザインとも大きく変わった。)
コンセプトの「キャンパスの交差点」は「学生諸君」「教職員」「父兄及び卒業生」「設置母体たる市民の皆様」という四者がキャンパスで織りなす交差点の意



71号 [2004年(平成16年8月25日)]



73号 [2005年(平成17年8月25日)]

1999年
●1号館完成
●大学院地域政策研究科(修士課程)認可

1997年
●創立40周年記念式典開催
●事務棟増築完成

1996年
●地域政策学部地域政策学科 新設
●地域政策学部が加わったため入学式の会場を東館(現5号館)から群馬音楽センターへ移す

1995年
●WTO(世界貿易機関)発足
●windows95 発売

1996年
●地下鉄サリン事件発生

1997年
●消費税が5%に引き上げ

1998年
●長野オリンピック開催

1999年
●ヨーロッパ単一通貨ユーロ登場

2000年
●九州・沖縄サミット開催
●地方分権一括法施行

2001年
●アメリカ同時多発テロ事件発生

2002年
●日韓W杯開催

2001年
●大学院地域政策研究科(博士後期課程)認可
●大学院経済・経営研究科(修士課程)認可
●大学院地域政策研究科(博士前期課程)開設認可

2002年
●6号館完成
●地域政策学部地域づくり学科 設置

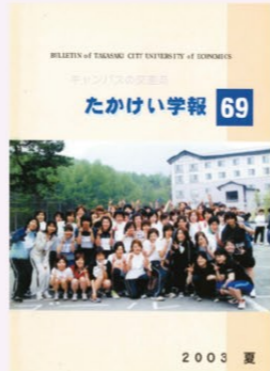
2003年
●前橋工科大学・群馬県立女子大学と本学の間で「群馬公立3大学連携協議会」結成
●文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(地域政策学部)採択
●大学院経済・経営研究科(博士後期課程)設置
●高経大前バス停が新築(バスクル・こぼな)

2004年
●文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(地域政策学部)採択
●6号館完成

2005年
●文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(経済学部)採択
●地域政策学部観光政策学科 設置

2006年
●オープンキャンパスを初めて開催
●コーヒーハウスからマクドナルドへ変わり営業開始(～2009年まで)

69号 [2003年(平成15年8月25日)]



65号 [2001年(平成13年8月25日)]



60号 [1999年(平成11年3月15日)]



57号 [1997年(平成9年8月27日)]



55号 [1996年(平成8年8月20日)]



54号 [1996年(平成8年3月1日)]

1994→2018

高経大史

2009年
●7号館が完成
●構内にセブンイレブンがオープン

2007年
●創立50周年記念式典・講演会(中曽根康弘氏・田部井淳子氏)開催

2007年
●サブプライムローンに端を発する世界金融危機が発生

2008年
●バラク・オバマが黒人初のアメリカ合衆国大統領となる

2009年
●裁判員制度スタート

2011年
●東日本大震災発生

2013年
●富士山が世界文化遺産に登録される

2015年
●個人番号(マイナンバー)の指定開始
●TPP交渉が大筋合意

2014年
●消費税が8%に引き上げ

2016年
●地域政策学部 20周年

2014年
●English Café本格開始

2013年
●本学・前橋工科大学・群馬県立女子大学に、新たに群馬県立県民健康科学大学を加え、県内公立4大学間の単位互換に関する覚書を締結
●cafeあすなる開店

2012年
●ホームカミングデイを初めて開催

2011年
●公立大学法人高経経済大学へ移行(初代理事長 高木賢)
●高崎シティギャラリー近くに、応援団OBの寄贈による記念碑「高経経済大学開学の地」が建立される



83号 [2010年(平成22年9月)] A4縦型両面カラー刷り 22ページ
●大きくスタイルが変更された ●法人化準備号
●2011.4.1法人化 公立大学法人へ(法人化前後の開設、電子化(Livecampus導入))
●オープンキャンパス報告(参加者アンケート調査の分析)
●後援会 高経TOEIC成績優秀者の表彰 ●たかまる、このみん(キャラクター名称募集)



79号 [2008年(平成20年9月)]



81号 [2009年(平成21年9月)]



85号 [2011年(平成23年10月)]



89号 [2013年(平成25年3月)]



95号 [2016年(平成28年5月)]



96号 [2016年(平成28年12月)]



99号 [2018年(平成30年7月)]

ロービジョンフットサルの 日本代表として学んだこと

竹内 雄亮
(たけうち ゆうすけ)

経済学部
経済学科 4年

始めたきっかけ

小学校3年でサッカーを始め、小学校、中学校と、地元のクラブチームに所属していました。しかし、中学校3年の時から視力が下がり、弱視と呼ばれる視覚障害者になったことで、それまで続けていたサッカーを諦めなければならなくなりました。東京の高校に進学後、サッカーをやりたい気持ちは変わらなかったため、学生寮のスタッフの方に紹介していただき、ロービジョンフットサル(弱視者フットサル)を始めることになりました。

活動の中で学んだこと

小学校からサッカーを始めて、病気になるまではプロのサッカー選手になることが将来の夢でした。しかし、病気により視力を失ってしまったため、将来の夢を諦めなければならなくなってしまいました。しかし、ロービジョンフットサルに出会い、日本代表として活動できたことで、私自身、責任や誇りを強く感じられるいい経験となりました。また、そうした活動の中で代表外でのトレーニングや振る舞いにも、日々気をつけて行動しなければいけないという責任感も学ぶことができました。

将来の夢・目標

個人としては、もう一度世界大会に出てロービジョンフットサル先進国であるヨーロッパから、日本を勝利に導けるようなプレーをしたいと思っています。また、プレー以外では同じ視覚障害を持った子どもたちや、その他の障害を持った子どもたちに向けて、サッカーを通してスポーツを楽しんでもらえる環境づくりに貢献していきたいです。そして、その中から代表を目指してくれる子どもたちが出てくれることを期待しています。

●活動歴、主な成績

2013年2月	ロービジョンフットサル世界選手権仙台大会	出場
2015年5月	ロービジョン世界選手権韓国大会	出場
2016年5月	ロービジョンフットサル日本選手権	MVP受賞
2017年6月	ロービジョンフットサル世界選手権イタリア大会	出場
2018年5月	ロービジョンフットサル日本選手権	優勝



IMF主催のエコノミスト (国際通貨基金) 養成プログラムに参加して

林 優香
(はやし ゆうか)

経済学部
経済学科 3年

参加しようと思ったきっかけ

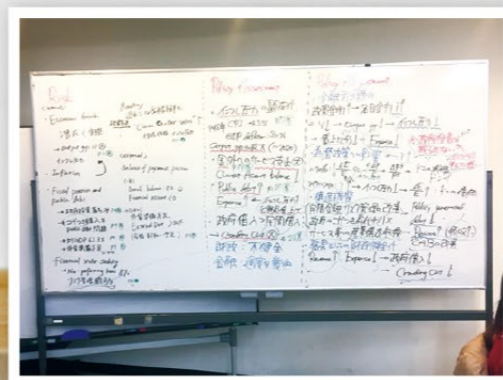
「国境にとらわれずに活躍できる人物になりたい。」幼い頃から漠然とこんな思いを抱えていました。大学生となりそんな人物に必要な素質は「自分の中でブレない軸を持ちながらも、他人の価値観やバックボーンを認められる人物」なのではないかと思うようになりました。大学2年間で学んだ知識をもとに、同じような分野に興味を抱く仲間との学習の場はまさに私の理想への大きな前進となると考え応募を決意しました。1日目の講義で自分が武器として使える知識や情報を増やし、2日目のグループプレゼンテーションを通じて学びを深めていくプログラムに魅力を感じました。

活動の中で学んだこと

参加のきっかけにもあるような、自分の中のブレない軸すなわち専門性を持つことの意義を強く感じました。様々な経歴を持ち、専攻も異なるメンバーとのグループワークでは、自分の立場と根拠を明確にした上での議論が求められるからです。また、疑問に思ったことや、再度確認したいことについては、率直に問いを投げかけ、時にはいい意味で恥をかくことも大切だと感じました。

将来の夢・目標

短期スパンの目標としては、経済学士の学位を取得することの意味をかみしめ、自分が納得できるような卒論を書き上げて卒業することです(笑)。長期では、国境の枠組みにとらわれずに活躍できる人物というのは永遠の目標であり続けると思います。多様性を受け入れる土壌を持ちながらも、自分の専門性を軸に持っている人になりたいので、自分の好奇心を大切に、これからも様々なことに積極的に挑戦していきたいです。



吹奏楽の魅力

吹奏楽を始めたきっかけ

もともと中学生の時に吹奏楽部に所属していました。高校には吹奏楽部がなかったため1度音楽から離れましたが、大学に吹奏楽部があると知り、また始めようかなと思ったのがきっかけです。さらに、入学式や学内演奏で先輩たちが楽しそうに演奏しているのを見て、また音楽をやりたいと思う気持ちになったのが1番の決め手でした。

中学生の時はホルンを担当していたのですが、現在はパーカッションを担当しています。パーカッションはバンド全体のリズムを支える重要なパートであり、久しぶりに音楽に携わる自分にパーカッションができるかどうか最初はとても心配でしたが、何よりも音楽を楽しむことを第一に現在も活動を続けています。

1番の思い出

1番の思い出は、昨年12月に行われたアンサンブルコンテストに打楽器八重奏として出場したことです。夏に行われる吹奏楽コンクールとは違い、部員同士がライバルとして演奏するためとても緊張感がありました。練習はとてもハードで、通常の部活に加え授業のない時間・休日を返上しての日々が1ヶ月以上続きました。結果は他団体に敗れ悔しいものとなりましたが、先輩の指導を受けながら真剣に音楽と向き合ったことは忘れられない思い出です。

将来の夢・目標

個人的な目標は、さらに演奏技術を向上させることです。パーカッションを大学から始め、徐々に慣れてきたとはいえ技術はまだまだだと感じる事が多くあります。来年度は3年生になり、コンクールも定期演奏会も最後になってしまうかもしれませんが、1回1回の演奏が悔いのないものになるようにさらに練習に励んでいきたいです。また、演奏会、訪問演奏などどんな場面の演奏でも聞いている方々を楽しませることができる演奏を心がけていきたいです。

●活動歴、主な成績

2017年 8月 群馬県吹奏楽コンクール	金賞受賞・県代表
2017年 9月 西関東吹奏楽コンクール	銅賞受賞
2017年12月 群馬県アンサンブルコンテスト	
フルート四重奏	金賞受賞・県代表
打楽器八重奏	金賞受賞
2018年 2月 西関東アンサンブルコンテスト	
フルート四重奏	
2018年 8月 群馬県吹奏楽コンクール	金賞受賞・県代表
2018年 9月 西関東吹奏楽コンクール	銅賞受賞

中原 舞菜美
(なかはら まなみ)

地域政策学部
観光政策学科 2年



留学で得た経験

国際学科を選んだ理由

私は小学生のころ、一度海外(オーストラリア)へ留学した経験があります。しかし、その頃は英語を満足に話すことができず、異文化に対する理解も浅いということを感じさせられました。しかしその経験を通じて、この頃から海外で働いてみたいという夢ができました。そのため、常に進学の際は親元を離れて生活できる環境を選んできました。地元の中標津から札幌へ、札幌から高崎へ、といったように常に変化する環境に身を置いてきました。そして大学入学に伴い、ある程度自分で物事を決められるようになってからは、海外で生活し異文化に対して更なる理解を深めたいと思うようになったのです。海外留学などに対する支援が特に充実した国際学科は、私にとって理想の学科でした。また、国際学科の授業には英語のみで授業を行う科目もあるため、自分の英語を磨くうえでとても適した学科であると思い選びました。

短期語学留学で学んだこと

今回の語学留学で学んだことは主に二つあります。一つ目は、海外留学は現地で英語を使って自ら会話してこそ意味のあるものになっていくということです。留学先の語学学校でよく見かけた光景なのですが、多くの日本人が同じ日本人同士で行動し日本語で会話しているといったことがよく見られました。しかし、これでは海外留学をする意味がありません。そのため私は積極的に国籍の異なる人たちと買い物に行ったり、食事をするようにしました。おかげで短い期間とはいえ留学中に自然に英語を使うことができるようになりました。

二つ目に学んだことは、日本人は英語が苦手というのは都市伝説だということです。語学学校には多くの異なる国籍を持つ学生がいましたが、必ずしも全員が英語を流暢に話しているということはありませんでした。だからこそ、自信をもって積極的に英語を使っていくべきなのだ改めて実感することができました。以上の二つを私は海外留学から学ぶことができました。

将来の夢・目標

人の一生とは長いようで短いものです。だからこそ、私はその一生を日本だけで過ごすというのは非常に勿体ないことだと思っています。そのため私は将来、外資系企業、もしくは多国籍に展開している企業でビジネスや貿易のノウハウを身に付け、更に多くの人種や国籍を持つ人々と関わりを持ち、異文化同士を繋げる架け橋のような役割を担えるようになっていきたいと思っています。そのためにはこれからの選択肢を増やせるよう、更に自分の語学に磨きをかけ、在学中もしくは卒業後も多くの国を見て回り、海外インターンシップや長期留学も視野に入れ自らの能力を開拓していきたいと思っています。

蝦名 雄士
(えびな ゆうし)

経済学部
国際学科 2年

留学先(都市名):
オーストラリア(シドニー)





経済学部

教授 加藤 健太

地域政策学部

教授 森 周子

楽しむためにエネルギーを注ぐ

企業を探求する

多くの専門である経営史という学問領域は、文字通り企業の歴史を取り扱う。その特徴は学際性にあり、戦略、組織、マーケティング、企業家・経営者、生産システムなど企業に関わるすべてを研究の題材にできるところに魅力を感じている。

だから、ゼミの“看板”には企業研究を掲げている。ゼミ生は、『週刊ダイヤモンド』や『週刊東洋経済』、『商業界』、『日経MJ』などの記事を資料に用いるとともに、財務データを使ってレポート(4年生は卒業論文)を書く。基本的に、自分が興味を持った企業を分析対象に選んでもらっている。その結果、これまでに大戸屋やスタート・トゥデイ(現・ZOZOTOWN)、エーザイ、GUなどを題材にした傑作が生みだされてきた。今も、これからもゼミ生のオモシロいレポートや卒論を読めることは、多くの楽しみの1つである。

対外交流に挑む

多くはとても楽しんでいるけれども、レポートを書き、それを素材にゼミ内で議論するだけでは何かの足りない。企業研究は基本的に個人作業だからである。そこには仲間と協力し合い、ときにぶつかり合いながら何かを作り上げる、青春の香りが(あまり)しない。

というわけで、うちのゼミでは、2年次に埼玉大学の石直樹ゼミ・今泉飛鳥ゼミと“プレゼンバトル”を開催し、3年次には渋谷栄一杯経済史・経営史ディベートリーグに参加している。

“プレゼンバトル”は文字通り、パワーポイントを使ったプレゼンテーションと質疑応答で構成されたイベントである。質疑応答といっても、高経VS埼大という形式を採用して、“バトル”感を演出している。毎年、教員が3つのテーマ(お題)を設定し、両大学が3つのチームを組織する。8回目を数える2018年度は、「将来ムーブメントを起こす日本のIT系ベンチャーはどこだ!!」などのテーマに取り組んだ。

ディベートリーグは、北海道から兵庫まで9大学が参加する討論会であり、2018年度で16回を数える。ポイントは、ゼミの看板に掲げた企業研究とかなり異なるテーマがたびたび設定されることである。たとえば、2018年度は「農産物の貿易自由化」、2017年度は「財政再建」であった。学生が馴染みのないテーマについて、根拠を示しながら議論を展開し、自分たちの主張を相手に認めさせることは容易ではない。だからこそ、ゼミ生はこのイベントにエネルギーを注ぐのである。

ほか、こうした対外交流をゼミ活動に導入した1つの理由は、チームの中で自分がどのような役割を果たせるのかということを考えてもらいたいからである。大学を卒業したら、ほとんどのゼミ生は組織の中で働くことになる。そして、彼・彼女たちにはぜひ活躍してほしいと思う。そのためには、組織の中で果たせる役割、あるいは発揮できる能力に自覚的であった方がよい。対外交流がそのきっかけになれば、と切に願う。

楽しむためにエネルギーを注ぐ

テキストにやってオモシロいことはない、何かを楽しむためには、エネルギーを注がなければならない。この持論は、ゼミ生に限らず、学生に限らず、多くのひとに届けたいメッセージである。

知らないこと、分からないこと、できないことは楽しみようがない。ルールも選手の名前も知らずに野球を観戦しても、誰が何をしているのか分からないから、オモシロくないだろう。振ったバットにボールが当たらなければ野球を楽しめないだろう。これは、スポーツに限らず、音楽でも、学問でも、仕事でも変わらないと思う。

能力やセンスも無視できないので、エネルギーを注げば、思い通りの成果を得られるとはいわない。しかし、何かを楽しむためには、知ること、分かること、できることが欠かせない。だから、ゼミ生には、ゼミ活動を楽しむために、そして、大学生活を楽しむために、知識を身につけ、それを自分の意見として磨き上げ、自分の言葉で発信できるようになってもらいたいと強く思うのである。

個性を伸ばし、ユーモアに溢れたゼミをめざして

教員プロフィール

2006年から2年間は埼玉県の私立大学、2008年から6年間は佐賀県の国立大学(佐賀大学)に勤務し、2014年より本学に勤務しております。担当科目は社会保障論、公的扶助論、理論社会学などです。

東京都北区出身および在住で、途中、佐賀県佐賀市に6年間、東京都江東区に5年間居住しておりました。佐賀県には並々ならぬ愛着を感じており、毎年、11月上旬のバルーンフェスタと唐津くんちの時期には必ず訪れております。佐賀県は、食べ物もおいしく、程よくのどかで、歴史的にも、肥前佐賀藩の伝統を有し、幕末・明治期に活躍した偉人を多数輩出するなど文化の薫りも高く、お勤めの土地です。

趣味は音楽鑑賞、マンガを読むことなどです。幼少期は漫画家を目指していましたが、人物しか描けないため挫折しました。好きな漫画家は青池保子、中山星香、魔夜峰先生などです。また、学生時代はバンドを組んでおり、ギター、ベース、ボーカル、コーラスを担当していました(現在はまったく楽器に触らないため、演奏技術が著しく減退してしまいました)。好きなアーティストはm-flo、Perfume、Bobby Caldwell、Incognitoなどです。

研究テーマ

ドイツの社会政策・社会保障について、理論面および制度面から研究しています。もともと、大学では社会学を学んでいたのですが、大学の交換留学で1年間ドイツ(ベルリン自由大学)に留学した際に、社会政策という学問分野に出会いました(ちなみに、ドイツを留学先に選んだ理由は、ビールが好きだからという不純なものでありましたが)。そして、経済的効率性(自由市場経済の実現)と社会的公正(社会的弱者への対応)の両立を志向する「社会的市場経済」という概念を理念に掲げて社会政策や経済政策を運営するドイツのスタンスに大きな興味を覚えました。

そこで、大学院では戦後ドイツの年金政策について研究し、ドイツの公的年金の仕組みが、社会的市場経済の影響のみならず、その時々々の社会・経済状況の影響をも受けながらどのように展開してきたのかを考察しました。その後も、年金のみならず医療、介護、労働政策などに関心の幅を広げ、気づけばドイツの社会保障制度全体を網羅するようになっていました。ドイツと日本は社会保障の制度や構造が似ていることから、ドイツの制度・政策を知ることで、日本の制度・政策へのヒントや気づきも適宜得られています。

ゼミでの活動

ゼミでは日本の社会保障・社会政策について研究しており、3年次には学生主催の大規模な学術交流イベントである「ゼミナール大会」に出場します。全国規模の「日本学生経済ゼミナール大会」(通称インター大会)と関東規模の「日本学生経済ゼミナール大会関東部会」(通称インター大会)とがあり、2018年度は、当ゼミから「子どもの貧困」、「少子化対策」、「住宅手当」をテーマとする3チームがインター大会のプレゼンテーション部門に出場しました。パワーポイントを用いて審査員の前で10分ほどのプレゼンテーションを行い、その優劣を競います。12チームを1ブロックとし、全12ブロックで予選を行い、本選に出られるのは各ブロックの1位のみという狭き門であり、実は当ゼミはこれまでまだ一度も予選を突破したことがありません。今後の目標としたいです。しかし、本学の学園祭期間中に開催される「地域政策学部プレゼンテーション大会」では、過去4年間で準優勝3回、優勝1回を果たしており、ゼミ生の励みと自信につながっています。なお、ゼミ生はアイドルおたく、道路・交通マニア、ディズニー通など、個性豊かな面々が多いです。



(ガトーフェスタ・ハラダ様への企業見学)



(八木工業(株)様への企業見学)

国際交流シンポジウムを開催しました!

2018年7月3日(火)に、ポーランドのヴロツワフ経済大学との学術交流協定締結を記念した国際交流シンポジウムを開催いたしました。当日は「アジアとヨーロッパの経済交流」をテーマとしたシンポジウムに、多くの学生・一般市民の方が参加し、基調講演や研究報告に耳を傾けていました。

前日には、高崎市内の施設や企業見学なども行い、本学とヴロツワフ経済大学、高崎市との連携がより深まりました。

本学は海外の15大学と提携(2018年2月現在)し、交換留学や学術交流を行っております。今後、さらなる提携校拡大を目指しており、国際交流シンポジウムや海外研修プログラム等を充実させ、学生が海外に目を向けるきっかけを増やしていきたいと考えております。



ポーランド
ヴロツワフ経済大学



高崎経済大学



ふるさとを語る

日本編その36 福岡県築上郡上毛町

『私をつくる町』

上毛町というところ

私の出身地、上毛町は福岡県の最東端、大分県との県境に位置します。人口8000人未満の小さな町です。上毛と書いて「こうげ」と読み、群馬の上毛(じょうもう)と同じ字を書くため、こちらへ移り住んでからも上毛という字を見かける度に故郷のことを思い出します。

上毛町は住み良い田舎です。山々に囲まれており、どこに行っても緑を感じることができます。群馬に来る前は都会に憧れて、不便さ、不自由さにばかり目を向けていましたが、新しい土地に移り住んでみて、地元には地元の空気感やゆっくりとした時の流れがあり、私はそういった素晴らしい環境に育てられてきたと思えるようになりました。



上毛町の風景①

上毛町での経験

町は廃校になった小学校の木造校舎を改装した宿泊施設やログハウス経営などで町おこしに取り組んでいます。私は小学生の頃に、上毛探検隊と称したワークショップに参加し、町にある古墳、遺跡、滝、などを巡り壁新聞を作り発表する等の活動をしました。そのような活動は子ども達の町への愛情を育み、私自身もとても影響を受けました。それが地域政策学部での活動に繋がっているのかも知れません。



上毛町の風景②

福岡で育って

中高生になると、小倉や博多といった都会へよく電車を使って遊びに行きました。ショッピングをしたり、映画を見たり、ライブに行ったりすることが多かったです。博多や小倉は、上毛町からすると華やかでオシャレな都会です。しかし、福岡県民にとってラーメンや明太子などは地域を超えて愛されており、私たち福岡県民が誇らしく思うことの一つです。皆さんも、ぜひ福岡に遊びに来てみてください。



博多の街並み



海外編その35 カンボジア

『心まで温まる暖かい国・カンボジア』

地元のシェムリアップ州

カンボジアの気温は毎日30度前後で、季節は雨季と乾季だけです。乾季はほとんど雨が降らないのですが、雨季は体に当たると痛いほどのスコールに見舞われます。私の生まれたシェムリアップは、大昔のカンボジアの首都で、王様によって建てられた遺跡がたくさんあるところ。その中で最も知られているのはアンコールワットです。観光業が盛んな地域であり、海外からの観光客がたくさん訪れます。そのため、英語はもちろん他の言語も習うのが一般的です。



アンコールワット

人々の生活習慣と文化

カンボジアは農家の人が多く、みんないつも笑顔で優しく穏やかな性格です。しかも早寝早起きで、昼になるとハンモックで昼寝をするなどゆったりとした生活を送っています。また、日本と違って、カンボジアの挨拶は「ニャム バイ ナウ?」(訳: ご飯を食べましたか?)と聞くのが普通です。お母さんがいなくて、ご飯がない時は知り合いの家を訪ねると、必ずご飯のことを聞かれるので、食べられます。



親感謝祭

食文化・愛される食べ物

食べ物で美味しいものはたくさんあるのですが、日本人に珍しいもので国民に愛されている食べ物は何と言ってもプロホックでしょう。塩漬の魚を発酵させた調味料で、しょっぱくて、とても臭いです。細かく刻んで他の調味料をくわえて、イメージ的にマヨネーズのような感覚で魚や肉、野菜と食べます。実は、私の家の近くにプロホックを作るところがあります。住民は何とも思わないのですが、観光客はいつも臭そうな顔をしながら通り過ぎます。



プロホック



鶴鷹祭 かくようさい

第52期体育会本部 代表幹事
地域政策学部 4年 川瀬 雄大



第43回鶴鷹祭を起点に第44回、第45回と連続総合優勝することができ、14年ぶりになる待望の3連覇を果たすことができました。2年ぶりのアウェー開催ということもあり、慣れない環境とアウェーの重圧があるなか、高崎経済大学の選手一人一人が勝利に貪欲になった結果である。

都留文科大学との総合体育対抗戦である「鶴鷹祭」。この鶴鷹祭では普段関わることのない他部活を応援することができるため、大学間に加えて部活間での交流も図れる。そのため、応援する部活や応援される部活同士刺激となって、真剣にプレーしている姿を見ることができた。また、試合や懇親会などで両大学の選手たちが和気あいあいと交流していて、今後とも価値ある伝統として引継いでいってほしい。

最後に、鶴鷹祭の運営にあたり、学長をはじめとする諸先生方、学生支援チームの皆様、地域住民の皆様、そして体育会員の皆様、私たち主催者には、至らぬ点が多かりましたが皆様のご協力があり、無事に鶴鷹祭を大きな問題、事故等なく開催することができました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第45回鶴鷹祭 試合結果表
平成30年6月23・24日 於：都留文化大学

種目	高経大	都留大	MVP or 敢闘賞
弓道	○ 12	● 4	塚原 優太
剣道(男)	○ 5	● 1	白鳥 輔
剣道(女)	○ 2	● 1	伊藤ななみ
硬式テニス(男)	○ 5	● 3	早川こう太
硬式テニス(女)	○ 3	● 0	村田 真優
サッカー	○ 2	● 1	榎沢 聡
柔道	● 1	○ 3	鈴木 太耀
準硬式野球	● 5	○ 8	大月康太郎
ソフトテニス	● 2	○ 5	竿漕 大夢
ソフトボール	● 3	○ 4	鈴木惇之介
卓球(男)	○ 6	● 1	山田 将史
卓球(女)	○ 3	● 1	竹内 果緒
バスケットボール(男)	○ 73	● 70	阿部 貴一
バスケットボール(女)	● 47	○ 102	天田 千尋
バドミントン(男)	○ 4	● 1	高草木 壘
バドミントン(女)	● 0	○ 4	矢崎 菜南
バレーボール(男)	○ 2	● 0	栗原 隆
バレーボール(女)	● 0	○ 2	平柳菜々美
ハンドボール(男)	● 17	○ 23	小泉 翔斗
ハンドボール(女)	● 14	○ 18	後藤 安希
ラグビー	○ 42	● 36	熊谷 流星
陸上競技	○ 28	● 26	及川 大樹
総合成績	● 13	○ 9	



三扇祭 みつおうぎさい

第61回三扇祭実行委員会 委員長
地域政策学部 3年 金田 玄

今年の第61回三扇祭は11月1日から4日までの4日間に渡り開催されました。学生だけではなく、地域の方など高経に関わる全ての方々に楽しんでもらえるような三扇祭にすべく、我々実行委員は日々精進してきました。そんな今年の三扇祭はテーマを「Rest&Art(リスタート)」と掲げ、「Rest」と「Art」を組み合わせ、また新たな気持ちで再出発するという想いを込めました。そのテーマ通り、60回という節目を超えた最初の三扇祭に相応しいものを運営することができたのではないかと思います。

今年も天候に恵まれ、沢山の方々にご来場していただきました。芸能企画をはじめとする様々な企画が盛り上がり、我々実行委員も大変楽しみながら三扇祭を創り上げてきました。

今年の三扇祭はいかがでしたでしょうか。前述したとおり、学生だけではなく教職員の方や企業の方、そして地域の方など三扇祭に関わっていただいたすべての皆様楽しんでいただけるように頑張ってきました。楽しんでいただけたなら実行委員一同うれし限りです。

最後となりますが、今年の三扇祭が成功したのは三扇祭へのご支援とご協力をいただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

来年度もまたよろしくお願いいたします。



たか けい INFORMATION



キャリア支援からのお知らせ

OB・OGによる就職相談会が開催されました

毎年恒例の「OB・OGによる就職相談会」が今年も東京、高崎の2会場で開催されました。現役の学生たちは幅広い年齢層かつ多様な業種・職種の前輩方から、たくさんのヒントやアドバイスをいただき、今後の就職活動や社会人生活に向けた有益な情報収集の場となりました。

東京会場

10月13日(土)に東京グリーンパレスにて、東京近郊在住の卒業生が組織する「東京三扇会」主催による「OB・OGによる就職相談会in東京」が開催されました。同会副会長の関口史人氏(清水建設(株)勤務)による就職セミナーと、同氏の他12名の同窓生によるブース形式の相談会が行われ、参加した学生たちは真剣な眼差しで話を耳を傾け、また質問をしていました。学生たちはその後行われた東京三扇会の定時総会にも出席し、積極的に同窓生に話しかける姿も見られました。



高崎会場

11月24日(土)に本学7号館において「OB・OGによる就職相談会in高崎」を開催しました。初めに本学卒業生でソニー生命保険(株)常勤監査役である野中武敏氏より「社会へ踏み出す後輩の皆さんへ」と題して講演いただきました。その後は全国からお集まりいただいた36名の同窓生がブースに分かれ、学生からの相談に応じていただきました。参加学生からは「同窓生なので、聞きにくいことも聞けて良かった」といった声もあがり、大変貴重な1日となりました。

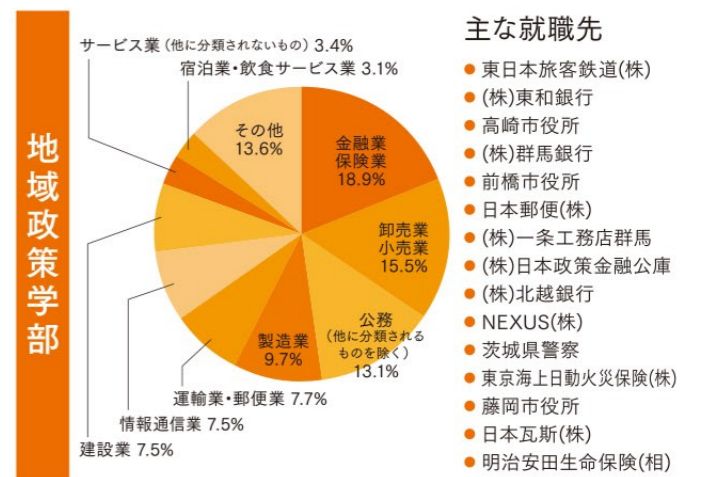
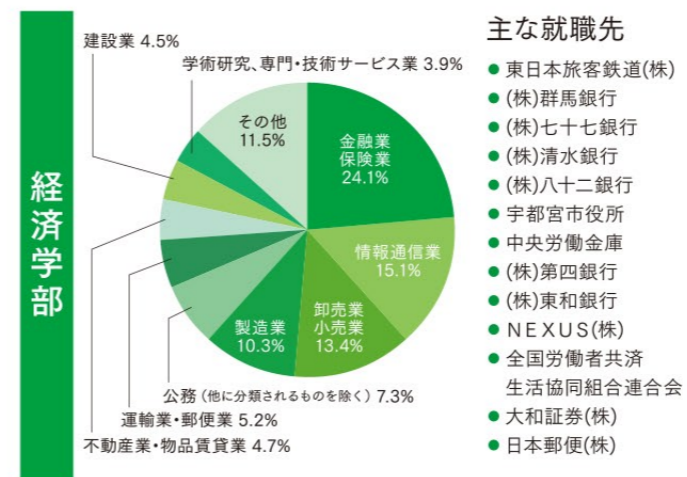


内定者報告会が開催されました

12月12日(水)に「内定者報告会」が開催されました。内定者報告会は就職活動を終了した4年生がこれから就職活動をする下級生に対し、内定先の説明や自身の体験談の報告、アドバイスや質問対応を行うイベントです。当日は30名近い4年生がブースに分かれ、集まった下級生に対し新鮮な情報を提供してくれました。就職活動に向けて下級生たちの背中を大きく押してくれる機会となったことは間違いありません。



学部ごとの進路状況(2017年度卒業生実績)



後援会からのお知らせ

高経大後援会学生奨学金について

後援会では、学生の学業と生活支援を目的とした給付型奨学金制度を設けています。給付額は各学期授業料の2分の1相当額もしくは3分の1相当額です。なお、対象者は授業料減免対象者の中から、特に成績優秀な学部学生を学期ごとに選定しています。(今年度の対象者の選定は終了しました。)

TOEIC及び外国語検定試験成績優秀者表彰

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に表彰状と記念品を贈呈します。また、2018年度から、外国語検定試験(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル語、イタリア語)を受験して優秀な成績を収めた学生に対する表彰も新たに設けました。

高経会館について

大学より徒歩5分のところに建つ宿泊・研修施設です。宿泊室は全て個室となっており、学生だけではなく、保護者や同窓生の皆さまもご利用いただけます。遠方から高崎にお越しの際には、ぜひご利用ください。

支部総会を開催しました

9月の関東甲信越支部総会を皮切りに11月まで、全国8支部で開催しました。

今年も多く保護者の皆さまにご出席いただき、教員や同窓生と成績・就職等様々なことについて意見交換が行われました。

なお、来年度の予定は2019年7月頃にホームページにてお知らせいたします。



●お問い合わせ＝後援会事務局：電話027-344-7902

同窓会からのお知らせ

今年度各地で開催された、同窓会支部総会です。多くの皆さまのご協力のおかげで、無事に終了することができました。来年度もよろしく願います。

●お問い合わせ＝学生支援チーム(同窓会事務局)：電話027-329-6693

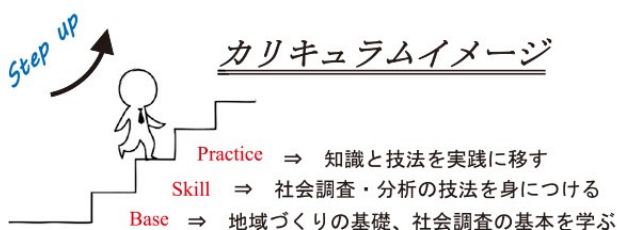
支部	開催日	開催場所	参加人数
桐生支部	4月21日(土)	美喜仁館	25
栃木支部	5月19日(土)	ホテルサンルート佐野	40
京滋支部	6月9日(土)	ANAクラウンプラザホテル京都	30
石川支部	8月18日(土)	ホテル日航金沢	20
富山支部	8月25日(土)	富山ビルディング	18
福井支部	8月25日(土)	ウェルアオッサ	23
愛媛支部	9月1日(土)	割烹 三鶴	18
群馬支部	9月15日(土)	ホテルメトロポリタン高崎	125
東海支部	9月15日(土)	中日パレス	70
新潟支部	9月29日(土)	万代シルバーホテル	22
宮城支部	10月6日(土)	スマイルホテルレストランシェブル	40
東京支部	10月13日(土)	ホテルグリーンパレス	150
札幌支部	10月20日(土)	京王プラザホテル札幌	75
広島支部	10月20日(土)	ホテルセンチュリー 21広島	40
長野支部	10月27日(土)	メルパルク長野	70
関西支部	11月10日(土)	新大阪ワシントンプラザホテル	65
鹿児島支部	11月10日(土)	ホテルレクストン鹿児島	40
三重支部	11月10日(土)	四日市シティホテル	40
オホック支部	11月10日(土)	北見プラザホテル	17
岩手支部	11月15日(木)	ホテルニューカーリーナー	25
静岡支部	11月17日(土)	クーポール会館	45
青森支部	11月17日(土)	ホテル青森	60
飯田支部	12月1日(土)	ホテル弥生	25
大分支部	12月8日(土)	ふく亭本店	25
四国合同支部	1月26日(土)	ホテルサンルート徳島	40

地域づくりをリードする人材の育成 コミュニティサイエンスプログラム(CSP)がスタート

Community Science Program 2019年度 開講

地域政策学部地域づくり学科では、住民主体の地域づくりをリードできる人材を育成します。

よりよい地域をデザインするためには、地域が抱える諸問題に解決策を提示し、その発展を助ける力(=コンサルティング能力)、すなわち、データサイエンスに立脚した調査分析能力と、組織や集団における多様な意見を調整するファシリテーション能力が必須スキルとなります。これらの能力を育成することに特化したカリキュラムとして、コミュニティサイエンスプログラム(CSP)を開講します。



硬式野球部が関東甲信越学生野球連盟2部リーグに昇格

硬式野球部が、関東甲信越学生野球連盟平成30年度秋季リーグ3部リーグ戦において全勝優勝を飾り、2部リーグへの昇格をかけた入替戦に臨みました。入替戦で茨城大学と対戦し、二連勝で見事2部リーグへの昇格を果たしました。本学の2部リーグ復帰は2012年春季リーグ戦以来となります。今後とも熱いご声援をお願いいたします。

